

# HP OpenView Performance Insight

## Frame Relay CPE Datapipe ユーザーガイド

ソフトウェアバージョン : 4.0

*Reporting and Network Solutions 7.0*



2005 年 6 月

© Copyright 2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

## ご注意

1. 本書に記載した内容は、予告なしに変更することがあります。
2. 当社は、本書に関して特定目的の市場性と適合性に対する保証を含む一切の保証をいたしかねます。
3. 当社は、本書の記載事項の誤り、またはマテリアルの提供、性能、使用により発生した直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害または結果損害については責任を負いかねますのでご了承ください。
4. 本製品パッケージとして提供した本書、**CD-ROM**などの媒体は本製品用だけにお使いください。プログラムをコピーする場合はバックアップ用だけにしてください。プログラムをそのままの形で、あるいは変更を加えて第三者に販売することは固く禁じられています。

本書には著作権によって保護される内容が含まれています。本書の内容の一部または全部を著作者の許諾なしに複製、改変、および翻訳することは、著作権法下での許可事項を除き、禁止されています。

All rights are reserved.

### Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause in DFARS 252.227-7013.

Hewlett-Packard Company

United States of America

Rights for non-DOD U.S. Government Departments and Agencies are as set forth in FAR 52.227-19(c)(1,2).

### Copyright Notices

© Copyright 2002-2004 Hewlett-Packard Development Company, L.P., all rights reserved.

### Trademark Notices

OpenView は、Hewlett-Packard Company の米国の登録商標です。

Java™ は Sun Microsystems, Inc. の米国の商標です。

Oracle® は Oracle Corporation, Redwood City, California の米国の登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

Windows® および Windows NT® は、Microsoft® Corp. の米国の登録商標です。

### 原典

本書は『*HP OpenView Performance Insight Frame Relay CPE Datapipe User Guide*』(November 2004)を翻訳したものです。

## サポート

次の HP OpenView の Web サイトを参照してください。

<http://openview.hp.com/> ( 英語 )

<http://www.hp.com/jp/openview/> ( 日本語 )

これらのサイトには、HP OpenView の提供する製品、サービス、サポートについてのお問い合わせ先や詳細が掲載されています。日本語サポートサイトを表示するには、上記英語版サイトから [ **サポート** ] をクリックし、[ **Software Support Online** ] をクリックしてください。サポートサイトでは、次のリンクが提供されています。

- [ 製品マニュアル ( 英語 ) ]
- [ トラブルシューティング ]
- [ ソフトウェアパッチ ]
- [ 問題報告 ]
- [ トレーニング ]
- [ サポートニュース ]



# 目次

<b>第 1 章</b>	<b>概要</b> .....	7
	サポートされる MIB.....	7
	機能と機能拡張.....	7
	追加情報の入手先.....	8
<b>第 2 章</b>	<b>データパイプのインストール</b> .....	9
	円滑なインストールのためのガイドライン.....	9
	Frame Relay CPE Datapipe 4.0 のインストール.....	10
	Datapipe によるデータ収集の確認.....	12
	Frame Relay CPE Datapipe 4.0 のアンインストール.....	15
<b>第 3 章</b>	<b>データパイプの設定</b> .....	17
	Frame Relay CPE Datapipe を設定するためのツール.....	17
	プロパティのインポートとエクスポート.....	19
	ログオプション.....	19
	データフィルタリングオプション.....	19
	プロパティ規定オプション.....	20
	ポーリングポリシーオプション.....	20
	アーカイブオプション.....	23
<b>第 4 章</b>	<b>ポーリンググループとポリシー</b> .....	25
	MIB-II 固有のポーリンググループ.....	25
	ルールベースのポーリンググループ.....	26
	フレームリレー ポーリンググループ.....	27
	ポーリングポリシー.....	27
<b>第 5 章</b>	<b>SNMP 収集の詳細</b> .....	29
	SNMP 収集.....	29
	TEEL ファイル内のオブジェクト ID.....	31
<b>索引</b> .....		35



## 概要

本章では、次の項目について説明します。

- サポートされる MIB
- 機能と機能拡張 (バージョン履歴)
- 追加情報の入手先

## サポートされる MIB

Frame Relay CPE Datapipe は、Frame Relay Report Pack 用の未処理のデータを収集します。Frame Relay CPE Datapipe は、レポートパックで使用する唯一のデータソースとしても、複数のデータソースの 1 つとしても使用できます。Frame Relay CPE Datapipe は、以下の MIB をポーリングします。

- RFC 1315
- Cisco Frame Relay MIB
- Nortel/Bay FRSW MIB
- Nortel/Bay WAN780 MIB

デフォルトのポーリング周期は 15 分です。デバイスが上記の MIB のいずれかをサポートしており、デフォルト設定に変更がなければ、15 分ごとに MIB がポーリングされます。

## 機能と機能拡張

Frame Relay CPE Datapipe は、インタフェースの再インデックス化と指定インスタンスポーリングをサポートしています。インタフェースの再インデックス化は、固定属性を使用してインタフェースを識別するための機能です。再インデックス化をサポートしているデータパイプは、デバイスがリブートされてインタフェースの番号が変わっても、そのインタフェースに接続できます。指定インスタンスポーリングでは、データ収集対象を一部のインタフェースだけに制限できます。データ収集対象はルールまたは特定の規定のいずれかで識別されます。

Frame Relay CPE Datapipe は、インタフェースの再インデックス化と指定インスタンスポーリングに加えて、次の機能を提供します。

- 5つの事前パッケージ済みのポーリングルール(一般的なDIP構成に基づく)
- 32ビットを超えるMIB-II値用の大容量カウンタ
- 認定情報速度(CIR)値の自動検出
- 廃棄適格フレーム数の自動検出
- このデータパイプでポーリングされる特定のOIDに関するSNMP収集の詳細
- データパイプを簡単に設定できる変更フォーム

2003年10月にリリースされたバージョン3.0のFrame Relay CPE Datapipeでは、サポートされるデータベースプラットフォームはSybaseのみでした。2004年4月にリリースされたバージョン4.0は、Sybaseに加えてOracleデータベース管理ソフトウェアもサポートしていました。RNS 6.0(2004年8月)では、バージョン4.0は変更されずにリリースされましたが、RNS 7.0(2004年11月)では重要度の低い不具合修正を含むバージョン4.1がリリースされました。

## 追加情報の入手先

本マニュアルに関連するドキュメントには次のものがあります。

- 『Frame Relay Report Pack 4.0 ユーザーガイド』
- 『Interface Reporting ifEntry Datapipe ユーザーガイド』



インタフェースの再インデックス化は、IFEntry Discovery Datapipeの機能です。インタフェースの再インデックス化のしくみについては、このユーザーガイドを参照してください。

- 『Frame Relay Newbridge Datapipe 4.0 Release Statement』(英語)
- 『Frame Relay Stratacom Datapipe 4.0 Release Statement』(英語)
- 『Frame Relay Ascend Datapipe 4.0 Release Statement』(英語)
- RNS 7.0のリリースノート(2004年11月)

中心となるプラットフォームであるOVPIのマニュアルと、OVPI上で動作するレポート機能についてのマニュアルは、次のWebサイトからダウンロードできます。

<http://www.hp.com/managementsoftware> (英語)

[Support]>[製品マニュアル(英語)]と選択すると、「Product manuals search」のページが表示されます。OVPIのマニュアルは、[1. Product]で[Performance Insight]を選択すると表示されます。また、レポートパッケージ関連は、[Reporting and Network Solutions]を、NNM関連のマニュアルは、[Network Node Manager]を選択すると表示されます。日本語のマニュアルは以下のURLからも入手できます。

<http://www.jp.hp.com/doc/manual/openview/index.html>

[Reporting and Network Solutions]の下項目には、発行年月が示されています。ユーザーガイドが改訂されて新しいものが公開されると、ソフトウェアのバージョン番号が変わらない場合でも、発行年月が変わります。改訂したマニュアルは定期的に公開されるため、このサイトを見て更新されていないかを確認して、最新版でない可能性のある古いPDFを参照するのは避けてください。



## データパイプのインストール

本章では、次の項目について説明します。

- 「Frame Relay CPE Datapipe 4.0 のインストール」
- 「Datapipe によるデータ収集の確認」
- 「Frame Relay CPE Datapipe 4.0 のアンインストール」

バージョン 4.0 の **Frame Relay Report Pack** を最近インストールした場合は、**Frame Relay CPE Datapipe 4.0** がすでにインストールされている可能性があります。データパイプがインストールされている場合、設定とログインレポートを開くことで、データが収集されているかどうかを確認できます。データパイプをインストールしたばかりで、これを構成したいという場合には、第 3 章「データパイプの設定」を参照してください。

## 円滑なインストールのためのガイドライン

RNS 7.0 の CD を挿入し、抽出インタフェースを起動し、OVPI コンポーネントのインストールを選択すると、インストールスクリプトは CD からすべての OVPI パッケージを抽出し、それをシステムの **Packages** ディレクトリにコピーします。この処理が終わると、インストールスクリプトは、**Performance Insight** を起動してパッケージマネージャを開始するように促します。パッケージマネージャのインストールウィザードを使用する前に、次のガイドラインを確認してください。

### ソフトウェアの前提条件

バージョン 4.0 の **Frame Relay CPE Datapipe** は、OVPI 5.0 上で動作します。バージョン 4.0 は、次のパッケージを必要とします。

- Common Property Tables 3.0 以降
- Interface Reporting Report Pack 4.0 以降
- Frame Relay Report Pack 4.0
- IFEntry Discovery Datapipe 2.0 以降

次のパッケージは必須ではありません。

- Interface Reporting ifEntry Datapipe 2.0 以降

- Interface Reporting Devices (Interface Reporting に付属のサブパッケージ)
- Thresholds Module 5.0

## アップグレードパッケージ

Frame Relay CPE Datapipe 4.0 には、アップグレードパッケージはありません。現在このデータパイプの古いバージョンを使用している場合は、まず初めにパッケージマネージャを実行して現在のバージョンをアンインストールしてください。削除が完了したら、パッケージマネージャを再起動し、Frame Relay CPE Datapipe 4.0 をインストールします。

## Common Property Tables

Frame Relay CPE Datapipe バージョン 4.0 には、Common Property Tables 3.0 以降が必要です。Common Property Tables を使用していない場合は、パッケージマネージャにより自動的に正しいバージョンがインストールされます。Common Property Tables の古いバージョンを使用している場合は、2.2 から 3.0 へのアップグレードパッケージをインストールして、バージョン 3.0 にアップグレードしてください。Common Property Tables 3.0 をお使いの場合には、バージョン 3.5 にアップグレードすることもできます。これらのアップグレードは、Frame Relay CPE Datapipe をインストールする前にインストールしてください。

Common Property Tables のアップグレードパッケージのインストールは簡単ですが、インストールのガイドが必要な場合や、このパッケージの動作について詳細を知りたい場合は、『Common Property Tables 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

## 分散環境

分散環境に Frame Relay CPE Datapipe 4.0 をインストールする際は、以下のガイドラインを使用してください。

- すべてのサーバーに OVPI 5.0 および OVPI 5.0 用のすべてのサービスパックがインストールされていることを確認してください。
- データをポーリングするすべてのサーバーに Frame Relay CPE Datapipe をインストールしてください。中央サーバーがポーリングを行わない場合には、中央サーバーにはデータパイプをインストールしないでください。
- リモートポラーとして機能するサーバーにはデータパイプをインストールしないでください。

## Frame Relay CPE Datapipe 4.0 のインストール

Frame Relay CPE Datapipe をアップグレードまたはインストールする前に、次のタスクを実行します。

- 「OVPI Timer の停止と、RNS CD からの OVPI パッケージの抽出」
- 「Common Property Tables 3.0 以降へのアップグレード」
- 「Frame Relay CPE Datapipe 4.0 のインストール」

### タスク 1: OVPI Timer の停止と、RNS CD からの OVPI パッケージの抽出

- 1 システムにログインします。UNIX® システムでは `root` でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows: 次を実行します。

- a [ **コントロール パネル** ] > [ **管理ツール** ] > [ **サービス** ] を選択します。
- b サービスの一覧から [ **OVPI Timer** ] を選択します。
- c [ **操作** ] メニューから [ **停止** ] を選択します。

UNIX: `root` で次のいずれかを実行します。

- HP-UX: `sh /sbin/ovpi_timer stop`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer stop`

- 3 RNS CD を挿入します。

Windows: [ **メインメニュー** ] が自動的に表示されます。

UNIX:

- a CD をマウントします (CD が自動的にマウントされない場合)。
- b CD のトップレベルのディレクトリに移動します。
- c `./setup` を実行します。

- 4 選択フィールドに **1** を入力し、[ **Enter** ] を押します。

インストールスクリプトは進捗した割合をプログレスバーに表示します。コピーが終わると、インストールスクリプトはパッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ **ようこそ** ] ウィンドウが開きます。

### タスク 2: Common Property Tables 3.0 以降へのアップグレード

Common Property Tables の古いバージョンを使用している場合は、Common Property Tables 3.0 以降にアップグレードします。アップグレードの際、他のパッケージを同時にインストールしないでください。Common Property Tables のアップグレードパッケージのみインストールしてください。パッケージマネージャによりアップグレードの完了が通知されたら、[ **完了** ] をクリックして [ **管理コンソール** ] に戻ります。

Common Property Tables のアップグレードに関する詳細情報は、『*Common Property Tables 3.5 ユーザーガイド*』を参照してください。現在、Common Property Tables のどのバージョンも実行していなければ、このタスクはスキップしてください。パッケージマネージャにより自動的に Common Property Tables がインストールされます。

### タスク 3: Frame Relay CPE Datapipe 4.0 のインストール

- 1 パッケージマネージャを開始します。パッケージマネージャの [ **ようこそ** ] ウィンドウが開きます。
- 2 [ **次へ** ] をクリックする。[ **OVPI パッケージの場所** ] ウィンドウが開きます。
- 3 [ **インストール** ] をクリックします。デフォルトのインストールディレクトリを承認するか、必要なら別のディレクトリを選択します。

- 4 [次へ] をクリックします。[レポートの配布] ウィンドウが開きます。OVPI アプリケーションサーバー用のユーザー名とパスワードを入力します。
- 5 [次へ] をクリックします。[パッケージの選択] ウィンドウが開きます。
- 6 [FRSCPE\_Datapipe 4.0] パッケージの横のチェックボックスをクリックします。
- 7 [次へ] をクリックします。[タイプの検出] ウィンドウが開きます。パッケージのインストール直後に [タイプの検出] を実行するには、デフォルトのままにします。
- 8 [次へ] をクリックします。[概要] ウィンドウが開きます。
- 9 [インストール] をクリックします。[インストールの進捗状況] ウィンドウが開きます。インストールが完了すると、パッケージのインストール完了メッセージが表示されます。
- 10 [完了] をクリックします。
- 11 OVPI Timer を再起動します。

Windows では次の手順を実行します。

- a [コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス] を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作] メニューから [開始] を選択します。

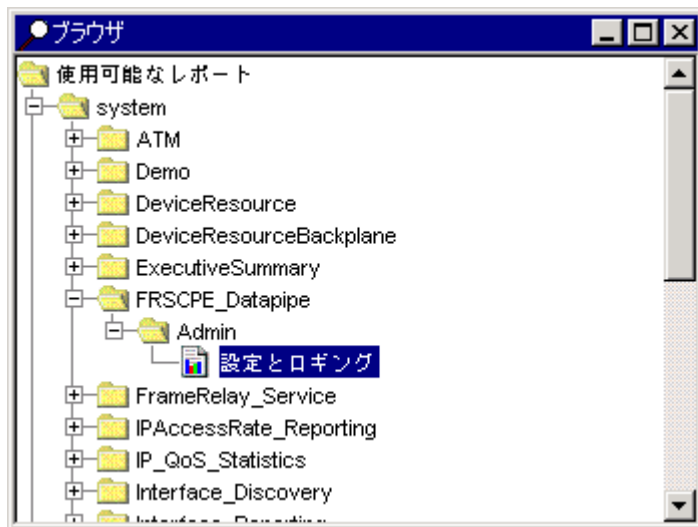
UNIX では、root で次のいずれかを実行します。

- HP-UX: `sh /sbin/ovpi_timer start`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer start`

## Datapipe によるデータ収集の確認

パッケージのインストール中、検出ファイルはシステムの `OVPI¥scripts` ディレクトリに置かれます。インストール中にタイプ検出オプションを有効にすると、インストール後すぐにデータ収集が開始されます。タイプ検出オプションを有効にしなかった場合、データ収集は後で自動的に実行されます。

インストール中にタイプ検出を有効にした場合、設定とロギングレポートを開くことで、データが収集されているかどうかを確認できます。このレポートは、**Frame Relay CPE Datapipe (FRSCPE\_Datapipe)** フォルダの下に **Admin** フォルダにあります。



設定とロギングレポート（下図参照）には、プロパティテーブルの新しい行の初期設定と、次に **Frame Relay Report Pack** のデータ行とのマッピングが示されています。

## レポートバック管理

## 設定とロギング



このレポートは、フレームリレーレポートバック管理コレクションに関する設定情報と、レポートバック内部のプロシージャ用の最新のログテーブルエントリのリストを表示します。'Component' パラメータを使用して表示するデータをフィルタします。

### FRSCPEマッピングプロシージャの設定

設定パラメータ	現在値	意味
logging level	1.00	High Level and Errors Only
data filtering	0.00	Report on all interfaces
provisioning	0.00	Use provisioned data only

### ログエントリ

時間	構成要素	メッセージ
水 6 08 03:31 午前	FRSCPE_ifEntry_map_p	Info: 14 polled rows were mapped to Rfrswitch_port in 0 seconds.
水 6 08 03:31 午前	FRSCPE_RFC1315_map_p	Inserted 14 new rows into Rfrswitch_pvc.
水 6 08 03:16 午前	FRSCPE_RFC1315_map_p	Inserted 14 new rows into Rfrswitch_pvc.
水 6 08 03:16 午前	FRSCPE_ifEntry_map_p	Info: 14 polled rows were mapped to Rfrswitch_port in 0 seconds.
水 6 08 03:03 午前	FRSCPE_RFC1315_map_p	Inserted 14 new rows into Rfrswitch_pvc.
水 6 08 03:03 午前	FRSCPE_ifEntry_map_p	Info: 14 polled rows were mapped to Rfrswitch_port in 4 seconds.
水 6 08 02:46 午前	FRSCPE_RFC1315_map_p	Inserted 14 new rows into Rfrswitch_pvc.
水 6 08 02:46 午前	FRSCPE_ifEntry_map_p	Info: 14 polled rows were mapped to Rfrswitch_port in 1 seconds.
水 6 08 02:31 午前	FRSCPE_RFC1315_map_p	Inserted 14 new rows into Rfrswitch_pvc.
水 6 08 02:31 午前	FRSCPE_ifEntry_map_p	Info: 14 polled rows were mapped to Rfrswitch_port in 1 seconds.
水 6 08 02:16 午前	FRSCPE_RFC1315_map_p	Inserted 14 new rows into Rfrswitch_pvc.
水 6 08 02:16 午前	FRSCPE_ifEntry_map_p	Info: 14 polled rows were mapped to Rfrswitch_port in 0 seconds.
水 6 08 02:01 午前	FRSCPE_RFC1315_map_p	Inserted 14 new rows into Rfrswitch_pvc.
水 6 08 02:01 午前	FRSCPE_ifEntry_map_p	Info: 14 polled rows were mapped to Rfrswitch_port in 1 seconds.

.

## Frame Relay CPE Datapipe 4.0 のアンインストール

Frame Relay CPE Datapipe をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 システムにログインします。UNIX システムでは `root` でログインします。
- 2 OVPI Timer を停止し、プロセスが終了するのを待ちます。

Windows では次の手順を実行します。

- a [コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作]メニューから [停止] を選択します。

UNIX では、`root` で次のいずれかを実行します。

- HP-UX: `sh /sbin/ovpi_timer stop`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer stop`

- 3 [管理コンソール]から、パッケージマネージャを起動します。パッケージマネージャの [よろこ] ウィンドウが開きます。
- 4 [次へ] をクリックします。[OVPI パッケージの場所] ウィンドウが開きます。
- 5 [アンインストール] をクリックします。
- 6 [次へ] をクリックします。[OVPI レポートの配布解除] ウィンドウが開きます。
- 7 [次へ] をクリックします。[パッケージの選択] ウィンドウが開きます。
- 8 *FRSCPE\_Datapipe 4.0* の横にあるチェックボックスをクリックします。
- 9 [次へ] をクリックします。[選択の概要] ウィンドウが開きます。
- 10 [アンインストール] をクリックします。[進捗状況] ウィンドウが開きます。削除が完了すると、パッケージの削除完了メッセージが表示されます。
- 11 [完了] をクリックします。
- 12 OVPI Timer を再起動します。

Windows では次の手順を実行します。

- a [コントロールパネル]>[管理ツール]>[サービス]を選択します。
- b サービスの一覧から [OVPI Timer] を選択します。
- c [操作]メニューから [開始] を選択します。

UNIX では、`root` で次のいずれかを実行します。

- HP-UX: `sh /sbin/ovpi_timer start`
- Sun: `sh /etc/init.d/ovpi_timer start`





## データパイプの設定

本章では、次の項目について説明します。

- **Frame Relay CPE Datapipe** を設定するためのツール
- プロパティのインポートとエクスポート
- ログオプション
- データフィルタリングオプション
- プロパティ規定オプション
- ポーリングポリシーオプション
- アーカイブオプション

### Frame Relay CPE Datapipe を設定するためのツール

Frame Relay CPE Datapipe を設定するには、次の 2 つの方法があります。

- コマンド行ユーティリティ
- 「管理」フォーム

フォームを使用すると、データパイプ設定の特定の部分を簡単かつ迅速に行うことができます。

#### コマンド行ユーティリティの起動

ユーティリティを起動するには、次の手順に実行します。

- 1 OVPI 管理者 (UNIX では root) としてシステムにログインします。
- 2 次のいずれかのコマンドを実行します。

**UNIX:** `$DPIPE_HOME/bin/perl $DPIPE_HOME/scripts/FRS_Config.pl`

**Windows:** `%DPIPE_HOME%\bin\perl %DPIPE_HOME%\scripts\FRS_Config.pl`

## 設定変更フォームの使用

次のオプションを修正するには、下に示すフォームを使用します。

- ログレベル
- データフィルタリング
- 準備

このフォームを開くには、[オブジェクト/プロパティの管理]ウィンドウで[全般的なタスク]にあるアイコンをダブルクリックします。フォームが開くと、現在有効になっている設定が表示されます。また、各オプションと可能な変更を説明するテキストも表示されます。

**FrameRelay サービス 管理**

このフォームを使用して、

Frame Relay レポートパックのプロビジョニング、データフィルタリング、およびロギングの設定を更新します。変更する [設定] を選択して、下の [変更] 設定ボックスに新しい値を入力してください。[適用] ボタンをクリックすると、変更が保存されます。[キャンセル] ボタンをクリックすると、変更が取り消されます。[OK] ボタンをクリックすると、変更を保存してフォームを閉じます。

ロギングレベル：設定とロギングレポートへ送られるメッセージの頻および詳細の度合いです。0 = ハイレベルのみ 1 = 情報 (デフォルト) 2 = すべて / デバッグ

データフィルタリング：ポーリング中に検出された通りに、新規ポートを ReportPack プロパティテーブルに作成します。0 = はい (デフォルト) 1 = いいえ

プロビジョニング：ifSpeed、ifType、およびifDescr のプロパティの値は、ポーリングされた値によって上書きされることはありません。(現在値が NULL でない場合) 0 = はい、NULL の場合のみ (デフォルト) 1 = いいえ、常にネットワークから更新

説明	Setting
Logging Level	1
Data Filtering	0
Provisioning	0

設定の変更

OK 適用 キャンセル

## プロパティのインポートとエクスポート

フォームを使用して、カスタマ名、場所、または各種インタフェースの属性を追加することができます。ただし、一括変更が必要な場合もあります。その場合、タブ区切りのファイルや表計算ツールを使用してインポートを実行するほうが便利でしょう。

このタスクには、次のように **FRS\_Config.pl** スクリプトを使用します。

- スクリプトの実行時に [ **エクスポート** ] オプションを選択すると、スクリプトは **PropertyData** ディレクトリに日付スタンプの付いた新しいファイルを生成します。
- スクリプトの実行時に [ **インポート** ] オプションを選択すると、スクリプトは名前が "**FrameRelay\_Switch\_PVC\_Property**" で始まるファイルを **PropertyData** ディレクトリにロードします。

PVC 端点を準備する最も一般的な方法は、短時間にネットワークをポーリングし、収集したデータをエクスポートして、変更が必要かどうかを調べることです。必要であれば変更し、変更後のファイルを一括フォームでシステムに再ロードします。プロパティファイルのフォーマットおよびこれらのファイルが保存される場所については、『*Frame Relay Report Pack ユーザーガイド*』を参照してください。

## ログオプション

**Frame Relay CPE Datapipe** には、設定とログレポーターが含まれています。このレポーターは **RFRSCPE\_ProcedureLog** テーブルを読み込みます。設定とログレポーターには、データパイプ収集中に生成されたログメッセージが含まれます。ログレベルのオプションは次のとおりです。

- レベル 0 – エラーメッセージのみ
- レベル 1 – 情報およびエラーメッセージ (デフォルト)。
- レベル 2 – 完全なデバッグレベルの出力

レベル 2 は、収集に問題が発生した場合以外は推奨しません。ログのレベルを変更するには、フォームを使用するか、コマンド行ユーティリティを実行します。

## データフィルタリングオプション

**Frame Relay CPE Datapipe** は、インタフェースデータに関して、プロミスキャスモードまたはデータフィルタリングモードで動作するよう設定できます。プロミスキャスモードでは、データパイプはレポートパックのプロパティテーブルに関連するプロパティ行を作成し、すべてのデータをレポートパックのベーステーブルにマッピングします。データフィルタリングモードでは、事前に規定されたデバイスのみ関連するプロパティ情報を更新でき、事前に規定された (既存の) デバイスインタフェースに対してのみデータがレートテーブルからベーステーブルにマッピングされます。デフォルトはプロミスキャスモードです。このモードが有効になっている場合は、次のようになります。

- すべてのデバイスが、レートテーブルからベーステーブルにマップされます。

- まだプロパティ情報を持っていないすべてのデバイスに対して、新しいプロパティレコードが作成されます。

社内の別の資産管理システムから準備データをアップロードすることで、大規模ネットワークを管理していて、正確に監視対象のデバイスを指定したい場合は、データフィルタリングモードの使用を検討してください。このモードには次のような利点があります。

- 事前に準備されたプロパティ情報を持つデバイスのみがレートテーブルからベーステーブルにマップされます。
- プロパティテーブルには、管理対象外の一部インタフェースに関する新しい行は作成されません。

データフィルタリングモードの唯一の欠点は、新しいインタフェースがネットワーク上に作成された場合に、それらを自動的に監視できないことです。データフィルタリングモードの設定は次のとおりです。

- 0 プロミスキャスモード
- 1 データフィルタリングモード

デフォルトのモードを無効にし、データフィルタリングを有効にするには、フォームを使用するか、コマンド行ユーティリティを使用します。

## プロパティ規定オプション

このオプションは、記録されているプロパティ情報を更新する際の情報の優先度を決定します。デフォルトのモード（モード 0）では、NULL または不正なプロパティ情報のみが、新しく収集されたインタフェース情報によって更新されます。モード 1 では、すべての既存のプロパティ情報が、新しく収集されたインタフェース情報によって更新されます。更新可能な列には、ifType（インタフェースの種類）と ifSpeed（インタフェースの速度）が含まれます。

モード 0 がデフォルトで、モード 1 はオプションです。デフォルトモードを変更することで、プロパティ規定値を再設定するには、フォームまたは提供されているスクリプトを使用します。

## ポーリングポリシーオプション

デフォルトのポーリングポリシーでは実現できない高度な設定を必要としない場合、デフォルトのポーリングポリシーまたはデータパイプグループを変更する必要はありません。この項では、各ポーリングポリシーオプションと、デフォルトの設定に対して実行できる簡単な変更について説明します。また、複雑なポーリングルーチンに関する情報を記載し、そのようなルーチンがいつ必要になるのかを説明します。

Frame Relay CPE Datapipe は、次に説明する 6 つのポーリングオプションをサポートしています。

- ▶ ポーリングオプション 1 から 6 は、MIB-II タイプのデータのポーリングを制御します。PVC 端点レベルでのポーリングは変更できません。また、このレベルでの指定インスタンスポーリングもサポートされません。再インデックス化は、より高レベルの MIB-II タイプの再インデックス化から派生しているため、PVC 端点レベルでの再インデックス化のサポートは必要ありません。

## ポーリングオプション 1: ACTIVE\_ALL

`ifAdminStatus` が `up(1)` のフレームリレーインタフェースをすべてポーリングします。その他のインタフェースはポーリングされません。

## ポーリングオプション 2: ACTIVE\_MONITORED

`ifAdminStatus` が `up(1)` で、`Interface Reporting Report Pack` のプロトコルデフォルトフォームの `ifType` の `Monitored` が `On` に設定されているすべてのインタフェースをポーリングします。`ACTIVE_MONITORED` は、`Frame Relay CPE Datapipe` のデフォルトのポーリングポリシーです。

## ポーリングオプション 3: ALL\_INTERFACES

検出されたフレームリレーインタフェースを、プロトコルが監視対象であるかどうか、`ifAdminStatus` が `up(1)` であるかどうか、およびインタフェースにポーリングのフラグが設定されているかどうかに関わらず、すべてポーリングします。

## ポーリングオプション 4: ALL\_MONITORED

`Interface Reporting Report Pack` のプロトコルデフォルトフォームの `ifType` の `Monitored` が `On` に設定されているすべてのフレームリレーインタフェースをポーリングします。このオプションは `ACTIVE_MONITORED` に似ていますが、`ifAdminStatus` に関わらずポーリングするため、`ACTIVE_MONITORED` ほど限定的ではありません。このオプションで特定のプロトコルのポーリングを無効にすることはできますが、ポーリングはすでに 4 つの `ifType` 値に限定されているため、`Frame Relay CPE Datapipe` での使用は限られています。

## ポーリングオプション 5: FLAGGED\_FR

これは、2 つの指定インスタンスポーリングオプションの 1 つ目のオプションです。このオプションは、`poll_flag_FRsifEntry` 値が 1 に設定されている場合に、明示的に監視フラグが設定されたインタフェースのみポーラーが監視するように制限します。このオプションは、フレームリレー固有のインタフェース上のトラフィックが、`OVPI` の大部分を占めている場合にのみ使用します。一般的なインストールにはお勧めしません。

## ポーリングオプション 6: FLAGGED\_IR

このオプションは `Frame Relay CPE Datapipe` の 2 つ目の指定インスタンスポーリングオプションです。`Interface Reporting Report Pack` がインストールされており、ポーリングが `IRifEntry_Datapipe` パッケージを使用して実行されている場合にのみ関連します。

このオプションは、`poll_flag_ifEntry` 値が 1 に設定されている場合に、明示的に監視フラグが設定されたインタフェースのみポーラーが監視するように制限します。このオプションは、監視対象のインタフェースと NNM を同期し、この同期を **Frame Relay** パッケージに反映させるのに使用します。**Interface Reporting Report Pack** 内で使用される指定インスタンスの設定を共有すると、作業の重複を省くことができます。このオプションは以下の場合に適しています。

- フレームリレー固有のインタフェースのボリュームが **OVPI** の大部分を占めている
- ポーリング対象となっているインタフェースの大部分について監視が必要ない

## 複数ポーラーの設定

複数のポーラーで **Frame Relay CPE Datapipe** を使用する場合は、追加の設定が必要です。標準のインストールでは、1 つのポーラーに対して 8 つのグループとポーリングポリシーが設定されます。複数のポーラーを使用する場合は、グループとポリシーのセットを追加することが必要です。

パッケージには、2 つの追加のポーラー設定を簡単に作成できるインストールスクリプトが含まれています。1 つのデータベースに対して 3 つ以上のポーラーを設定する必要がある場合には、グループファイルとポリシーの追加セットを生成しなくてはなりません。

- 1 システムにログインします。UNIX システムでは `root` でログインします。
- 2 `FRSCPE_Datapipe.ap` ディレクトリに移動します。
  - **UNIX:** `{%DPIPE_HOME%}/packages/FRSCPE_Datapipe/FRSCPE_Datapipe.ap`
  - **Windows:** `{%DPIPE_HOME%}\packages\FRSCPE_Datapipe\FRSCPE_Datapipe.ap`
- 3 次のコマンドを実行します。このコマンドは、現在の **Frame Relay** ポーリングポリシーを削除して 2 つの新しいポリシーのセット (`poller1` という名前のシステム用と `poller2` という名前のシステム用) を設定します。下の追加のコマンドで、デフォルトのポーリングポリシーを再作成できます。
  - 複数ポーラーに変更: `trend_proc -f create_multipollers.pro`
  - デフォルトのポーラーにリセット: `trend_proc -f remove_multipollers.pro`
- 4 ポーリングポリシーの管理を起動し、[編集]>[データパイプのインストール]を選択します。
- 5 [作成]をクリックして、新しいポーラーを作成します。各ポーラーのホスト名と IP アドレス(任意)を追加し、[OK]をクリックします。
- 6 すべてのポーラーを追加したら、[閉じる]をクリックして終了します。
- 7 左のパネルの [すべて]をクリックしてすべてのポーリングポリシーを表示します。
- 8 新しい `poller1` の各ポーリングポリシー (FR で始まるポリシー) を、ダブルクリックして変更します。
  - [ポーリングの割り当て先]設定を `poller1` のホスト名に変更します。
- 9 新しい `poller2` の各ポーリングポリシー (FR で始まるポリシー) を、ダブルクリックして変更します。
  - [ポーリングの割り当て先]設定を `poller2` のホスト名に変更します。

- 10 メニューから [編集]>[ポーリンググループ]の順に選択します。表示されたダイアログの上のペインで [同じビュー内にあるすべてのノード] を選択して、下のペインで poller1 を選択します。[Edit] ボタンをクリックします。poller1 によって収集されるノードをビュー poller1 に割り当てます。
- 11 メニューから [編集]>[ポーリンググループ]の順に選択します。表示されたダイアログの上のペインで [同じビュー内にあるすべてのノード] を選択して、下のペインで poller2 を選択します。[Edit] ボタンをクリックします。poller2 によって収集されるノードをビュー poller2 に割り当てます。

デバイスを、2つのポーラービューに重複して配置しないようにしてください。デバイスが重複していると、システムが同じデータを2回収集しようとしたときに、重複挿入エラーが発生します。また、poller1 と poller2 の両方でシステムクロックが正しく設定されていることを確認してください。ポーリングポリシーの詳細については、第4章「ポーリンググループとポリシー」を参照してください。

## アーカイブオプション

デフォルトでは、記録した未処理のデータは、差分値が計算された後アーカイブされません。記録した未処理のデータをアーカイブしないことで、システムのパフォーマンスを大幅に向上させ、データベースの記憶容量の要件を最小にしています。また、システムが安定状態に達した後、db\_delete\_data などのデータ保守ルーチンが実行する動作も少なくなります。

デフォルトの動作を変更し、記録した未処理のデータのアーカイブを開始するには、/OVPI/lib/trendtimer.schedファイル内の15分の収集時間に、以下のように **-A** オプションを追加します。

*修正前*

```
15 - - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect.exe -n -i 15
```

*修正後*

```
15 - - {DPIPE_HOME}/bin/mw_collect.exe -n -i 15 -A
```





## ポーリンググループとポリシー

本章では、次の項目について説明します。

- 「MIB-II 固有のポーリンググループ」
- 「ルールベースのポーリンググループ」
- 「フレームリレー ポーリンググループ」
- 「ポーリングポリシー」

### MIB-II 固有のポーリンググループ

**Frame Relay CPE Datapipe** は、**IFEntry Discovery Datapipe** と同じ基本ポーリングタイプグループを使用します。これらのポーリングタイプグループは、**IFEntry Discovery Datapipe** のインストール時に作成されます。ポーリングポリシーの管理を使用して、ポーリングタイプグループを表示および変更できます。

ポーリングタイプグループについて、以下に説明します。**Frame Relay CPE Datapipe** は、これらのグループを使用して各ポーリング対象デバイス上のインタフェースをどのように参照するかを決定します。デバイスのすべてのインタフェースがデータパイプによってポーリングされるわけではありません。データパイプは、**ifTypes** が以下の値であるインタフェースの **MIB-II** データのみをポーリングします。

- 32
- 44
- 58
- 92

#### GENMIB2IF\_Datapipe

MIB-II をサポートするすべてのノードの最上位レベルのグループです。

#### index-by-ifAlias

**GENMIB2IF\_Datapipe** グループのサブセット。インタフェース識別子として **ifAlias** を使用するすべてのノードを含みます。

## index-by-ifDescr

GENMIB2IF\_Datapipe グループのサブセット。インタフェース識別子として ifDescr を使用するすべてのノードを含みます。

## index-by-ifName

GENMIB2IF\_Datapipe グループのサブセット。インタフェース識別子として ifName を使用するすべてのノードを含みます。

## index-by-ifIndex

GENMIB2IF\_Datapipe グループのサブセットです。このグループはデフォルトです。GENMIB2IF\_Datapipe に属しており、index-by-ifAlias、index-by-ifDescr、または index-by-ifName には属さないすべてのデバイスが自動的にこのグループに含まれます。デバイスが他の index-by グループに割り当てられない限り（この割り当ては、タイプ検出によって自動的に、ユーザインタフェースから、またはスクリプトによって行われます）、デバイスはインタフェース識別子として ifIndex を使用するようデフォルト設定されています。

このグループは手動で編集しないでください。このグループは他のグループの論理的な組み合わせによるものです。

このグループは、ポーリングの制御よりも、インタフェース識別子として ifIndex を使用するデバイスを表示することを目的としています。このグループは、システムによって自動的に 1 時間ごとに再編成されます。デバイスを別のインデックスグループに再割り当てしても、そのグループの表示がすぐには消えない場合があります。ただし、index-by-ifIndex のデータ収集は、GENMIB2IF\_Datapipe グループに属していてその他の 3 つのグループには属していないデバイスをリアルタイムに表示するため、デバイスは新しい index-by グループによってポーリングされます。

▶ 通常のインストールでは、ネットワークの再インデックス化プロパティの識別と、正しいグループの割り当てを行うには、IFEntry Discovery Datapipe で実行される自動タイプ検出で十分です。

# ルールベースのポーリンググループ

上記で説明した 5 つの基本グループに加えて、Frame Relay CPE Datapipe には基本グループから派生した 4 つの追加グループがあります。各グループはポーリングルールを適用します。これらのグループは、ポーリングポリシーの管理を使用して変更することはできませんが、SQL で内容を表示できます。

グループ名	データベースビュー	説明
ifAlias-FR	KV_FRsifEntry_by_ifAlias	ポーリングルールが割り当てられた index-by-ifAlias グループから派生。
ifDescr-FR	KV_FRsifEntry_by_ifDescr	ポーリングルールが割り当てられた index-by-ifDescr グループから派生。

グループ名	データベースビュー	説明
ifIndex-FR	KV_FRSifEntry_by_ifIndex	ポーリングルールが割り当てられた、GENMIB2IF_Datapipe グループに属していて、index-by-ifAlias、index-by-ifDescr、または index-by-ifName グループに属さないデバイスから派生。
ifName-FR	KV_FRSifEntry_by_ifName	ポーリングルールが割り当てられた index-by-ifName グループから派生。

## フレームリレー ポーリンググループ

IFEntry Discovery Datapipe によって提供される 4 つの個別の MIB-II 関連のポーリンググループに加えて、Frame Relay CPE Datapipe は下に説明する 4 つの追加ノードグループを作成して使用し、フレームリレー固有のデータをポーリングできるようにします。

### FRSCPE\_Interfaces ノードグループ

フレームリレーデータ用の標準の RFC1315 MIB をサポートするすべてのデバイス。

### FRSCPE\_Interfaces\_Cisco\_DE ノードグループ

フレームリレーおよびCisco 固有の Frame Relay MIB 用の標準 RFC1315 MIB をサポートするすべてのデバイス。追加の Cisco テーブルは、廃棄適格カウンタおよび CIR 値を提供します。

### FRSCPE\_WAN780 ノードグループ

Bay WAN 780 MIB をサポートするすべてのデバイス。

### FRSCPE\_FRSW ノードグループ

Bay Frame Relay Switch MIB をサポートするすべてのデバイス。

## ポーリングポリシー

Frame Relay CPE Datapipe の標準のインストールでは、合計で 8 つの新しいポーリングポリシーが 15 分間隔で有効になります (複数ポーラーのサポートを有効にする必要がない限りこれらのポリシーは変更しないでください)。次の表に示すように、各ポリシーは MIB-II 固有グループとフレームリレー固有グループを組み合わせています。

ポリシー	収集されるデータのテーブルエイリアス名	収集元のグループ名
FR_ifAlias_Collection	rV_FRSifEntry_ifAlias	ifAlias-FR
FR_ifDescr_Collection	rV_FRSifEntry_ifDescr	ifDescr-FR

ポリシー	収集されるデータのテーブルエリア名	収集元のグループ名
FR_ifIndex_Collection	rV_FRsifEntry_ifIndex	ifIndex-FR
FR_ifName_Collection	rV_FRsifEntry_ifName	ifName-FR
FR_RFC1315_Collection	xFRSCPE_RFC1315_pvc	FRSCPE_Interfaces
FR_Cisco_frCircuit_Collection	xcfrCircuit	FRSCPE_Interfaces_Cisco_DE
FR_Bay_SW_Collection	xFRSCPE_FRSW_pvc	FRSCPE_FRSW
FR_Bay_WAN780_Collection	xFRSCPE_WAN780_pvc	FRSCPE_WAN780

Frame Relay CPE Datapipe は、IFEntry Discovery Datapipe プロパティテーブル `K_IFEntry_Disc` に `poll_flag_FRsifEntry` という名前のフラグ列を追加します。このフラグは、指定インスタンスポーリングの制御用に準備できます。詳細は、[第3章「データパイプの設定」](#)を参照してください。

## SNMP 収集の詳細

本章では、次の項目について説明します。

- 各 SNMP 収集で収集されるデータのタイプ
- 各 TEEL ファイル内の OID

### SNMP 収集

Frame Relay CPE Datapipe は 5 つの SNMP 収集を実行します。収集されるデータのタイプおよび TEEL ファイルへのパスについては、以下を参照してください。

#### SNMP 収集 1: FRSifEntry

##### データのタイプ

ifType = 32、44、58、または 92 のインタフェース用の MIB-II 収集

##### TEEL ファイルへのパス

```
{DPIPE_HOME}/packages/FRSCPE_Datapipe/FRSCPE_Datapipe.ap/r_FRSifEntry.teel
```

#### SNMP 収集 2: FRSCPE\_RFC1315\_pvc

##### データのタイプ

送信フレームおよび受信フレームなどの、RFC1315 をサポートするすべてのデバイスの一般 Frame Relay PVC 端点データ。

##### TEEL ファイルへのパス

```
{DPIPE_HOME}/packages/FRSCPE_Datapipe/FRSCPE_Datapipe.ap/  
xFRSCPE_RFC1315_pvc.teel
```

## SNMP 収集 3: FRSCPE\_FRSW\_pvc

### データのタイプ

送信フレームおよび受信フレームなどの、Bay デバイスの一般 Frame Relay PVC 端点データ。

### TEEL ファイルへのパス

```
{DPIPE_HOME}/packages/FRSCPE_Datapipe/FRSCPE_Datapipe.ap/  
xFRSCPE_FRSW_pvc.teel
```

## SNMP 収集 4: FRSCPE\_WAN780\_pvc

### データのタイプ

送信フレームおよび受信フレームなどの、Bay デバイスの一般 Frame Relay PVC 端点データ。

### TEEL ファイルへのパス

```
{DPIPE_HOME}/packages/FRSCPE_Datapipe/FRSCPE_Datapipe.ap/  
xFRSCPE_WAN780_pvc.teel
```

## SNMP 収集 5: xcfrCircuit

### データのタイプ

Cisco Frame Relay MIB をサポートするすべてのデバイスの、CIR、廃棄適格フレームの着信数と発信数を含む追加の PVC 端点に関するデータ。

### TEEL ファイルへのパス

```
{DPIPE_HOME}/packages/FRSCPE_Datapipe/FRSCPE_Datapipe.ap/xcfrCircuit.teel
```

## TEEL ファイル内のオブジェクト ID

次の表に、各 TEEL ファイル内のオブジェクト ID (OID) の一覧を示します。

収集名	OID リスト
FRSifEntry	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.1
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.2
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.3
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.4
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.5
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.6
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.7
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.8
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.9
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.10
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.11
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.12
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.13
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.14
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.15
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.16
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.17
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.18
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.19
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.20
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.21
	1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.22
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.1
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.6
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.7
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.8
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.9
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.10
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.11
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.12
	1.3.6.1.2.1.31.1.1.1.18

収集名	OID リスト
FRSCPE_RFC1315_pvc	1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.1 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.2 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.3 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.4 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.5 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.6 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.7 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.8 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.9 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.10 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.11 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.12 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.13 1.3.6.1.2.1.10.32.2.1.14
FRSCPE_FRSW_pvc	1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.2 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.3 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.4 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.24 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.25 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.26 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.27 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.28 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.29 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.30 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.31 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.32 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.33 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.34 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.35 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.36 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.37 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.38 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.41 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.42 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.43 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.44 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.45 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.46 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.47 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.6.7.1.48



収集名	OID リスト
FRSCPE_WAN780_pvc	1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.1 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.2 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.3 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.4 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.5 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.6 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.7 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.8 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.9 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.10 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.11 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.12 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.13 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.14 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.15 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.16 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.17 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.18 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.19 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.20 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.21 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.22 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.23 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.24 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.25 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.26 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.27 1.3.6.1.4.1.18.3.5.9.9.2.1.28
xcfrCircuit	1.3.6.1.4.1.9.9.49.1.2.1.1.1 1.3.6.1.4.1.9.9.49.1.2.1.1.2 1.3.6.1.4.1.9.9.49.1.2.1.1.3 1.3.6.1.4.1.9.9.49.1.2.2.1.17



## C

Cisco Frame Relay MIB, 7

Cisco ルーター, 21

Common Property Tables

アップグレード, 11

データパイプの要件, 10

## F

FLAGGED\_FR オプション, 21

FLAGGED\_IR オプション, 21

FRS\_Config.pl スクリプト, 19

FRSCPE\_FRSW\_pvc データ収集, 30

FRSCPE\_FRSW ノードグループ, 27

FRSCPE\_Interfaces\_Cisco\_DE ノードグループ, 27

FRSCPE\_RFC1315\_pvc データ収集, 29

FRSCPE\_WAN780\_pvc データ収集, 30

FRSCPE\_WAN780 ノードグループ, 27

FRSifEntry データ収集, 29

## G

GENMIB2IF\_Datapipe ポーリンググループ, 25

## I

ifAlias-FR ポーリンググループ, 26

ifDescr-FR ポーリンググループ, 26

ifIndex-FR ポーリンググループ, 27

ifName-FR ポーリンググループ, 27

index-by-ifAlias ポーリンググループ, 25

index-by-ifDescr ポーリンググループ, 26

index-by-ifindex ポーリンググループ, 26

index-by-ifName ポーリンググループ, 26

## K

K\_IFEntry\_Disc プロパティテーブル, 28

## M

MIB-II ポーリンググループ, 25

## N

Nortel/Bay FRSW MIB, 7

Nortel/Bay WAN780 MIB, 7

## O

OVPI Timer

起動, 12, 15

停止, 15

## P

poll\_flag\_FRSifEntry フラグ列, 28

Product manuals search, 8

PVC 端点

指定インスタンスポーリングはサポートされない  
, 20

準備, 19

## R

RFC 1315, 7

RNS CD からパッケージを抽出, 11

## S

SNMP 収集, 29

## T

TEEL ファイル内のオブジェクト ID, 31

TEEL ファイルのオブジェクト ID, 31

## X

xcfrCircuit データ収集, 30

## あ

アップグレード

Common Property Tables, 11

データパイプ, 10

インストール

インストール後の手順, 13

事前に必要なタスク, 10

分散環境, 10

インストール後の手順, 13

## か

記録した未処理のデータ、アーカイブ, 23

記録した未処理のデータのアーカイブ, 23

検出ファイル, 12

## さ

再インデックス化

PVC 端点レベルでは不要, 20

定義, 7

システムクロック、正しい設定, 23

指定インスタンスポーリング, 28

FLAGGED\_FR オプション, 21

FLAGGED\_IR オプション, 21

重複デバイス、関連エラー, 23

製品機能, 7

製品ドキュメント, 8

設定

コマンド行ユーティリティ, 17

フォーム, 18

複数のポーラー, 22

## た

データ収集、SNMP, 29

データパイプ

アップグレード, 10

アンインストール, 15

データパイプでポーリングされる MIB, 7

データパイプのアンインストール, 15

データパイプの削除, 15

データフィルタリングオプション, 19

データフィルタリングモード, 20

## な

ノードグループ, 27

## は

パッケージ、RNS CD から抽出, 11

フレームリレー ポーリンググループ, 27

分散環境, 10

プロパティ規定オプション, 20

プロパティ情報

インポート, 19

エクスポート, 19

プロパティ情報のインポート, 19

プロパティ情報のエクスポート, 19

プロミスキャスモード, 19

ポーラー、複数ポーラーの設定, 22

ポーリング

指定インスタンス, 28

タイプグループ, 25

ポーリンググループ

MIB-II 固有, 25

フレームリレー, 27

ルールベース, 26

ポーリングポリシー

Frame Relay CPE Datapipe 用, 27

オプション, 20

## ま

マニュアル、一覧, 8

メッセージのログ, 19

## ら

ルールベースのポーリンググループ, 26

ログレベルオプション, 19